

製品名: ラプター (10I12) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe16900**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,IF-P
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.23mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:100,IF-P 1:50-1:100
分子量	149kDa

抗原情報

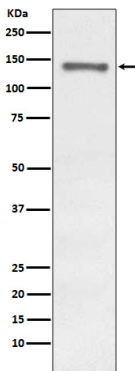
遺伝子名	RPTOR
別名	RPTOR; KOG1; KIAA1303; RAPTOR; Mip1;
遺伝子 ID	57521.0
SwissProt ID	Q8N122
免疫原	ヒトラプターの合成ペプチド

背景

mTOR の調節関連タンパク質 (Raptor) は、下流の標的への mTOR シグナル伝達を媒介する mTOR 結合パートナーとして同定されました。Raptor は、TOR シグナル伝達 (TOS) モチーフを介して 4E-BP1 や p70 S6 キナーゼなどの mTOR 基質に結合し、これらの基質の mTOR 媒介リン酸化に必要です。FKBP12-ラパマイシン複合体が mTOR に結合すると、mTOR-raptor 相互作用が阻害されることから、ラパマイシンが mTOR シグナル伝達を特異的に阻害するメカニズムが示唆されています。この mTOR-raptor 相互作用と、栄養素および/またはラパマイシンによるその調節は、GβL と呼ばれるタンパク質に依存しています。細胞の成長と生存、および栄養素やホルモンシグナルに応答したオートファジーを調節する哺乳類ラパマイシン標的タンパク質複合体 1 (mTORC1) の活性制御に関与し、mTORC1 基質をリクルートするための足場として機能します。mTORC1 は、成長因子またはアミノ酸に反応して活性化されます。成長因子刺激による mTORC1 活性化には、AKT1 を介した TSC1-TSC2 のリン酸化が関与し、RHEB GTPase が活性化されます。RHEB GTPase は mTORC1 のタンパク質キナーゼ活性を強力に活性化します。mTORC1 へのアミノ酸シグナル伝達には、Ragulator 複合体および Rag GTPase を介したリソソームへの再局在化が必要です。活性化された mTORC1 は、mRNA 翻訳およびリボソーム合成の主要な制御因子をリン酸化することにより、タンパク質合成を上方制御します。mTORC1 は EIF4EBP1 をリン酸化して、伸長開始因子 4E (eIF4E) の阻害を解除します。mTORC1 は S6K1 の「Thr-389」をリン酸化して活性化し、PDCD4 をリン酸化して分解を誘導することで、タンパク質合成を促進します。繊毛形成に関与しています。興奮性神経伝達における mTORC1 複合体は、精神活性物質リゼルゲ酸ジエチルアミド (LSD) によって誘発される向社会行動に必要です (類似性による)。

研究分野

画像データ



MCF-7 細胞溶解物における Raptor 発現のウェスタン ブロット分析。